

### 第65回宍道湖一周駅伝競走大会

## 古豪復活 奥出雲町チームが初優勝

春の宍道湖をタスキでつなぐ、第65回宍道湖一周駅伝競走大会が4月11日、松江市菅陸上競技場を発着点とする7区間61.9kmのコースで行なわれました。

この大会の第1部（市町村対抗）に出場した奥出雲町チームは、2位雲南市を3秒差で振り切り、見事初優勝を飾りました。

かつて仁多郡内のチームは長距離王国として活躍し、昭和60年に仁多町チームが優勝して以来、実に25年ぶりの優勝となりました。

レースは、1区安部浩美選手が3位で好スタートを切ると、2区の三谷俊介選手が区間賞の走りでも順位を一つ上げ、3区の松原隼人選手でトップに立ち、4区から6区までいづれも区間1位、2位の安定した走りでもトップ争いを繰り広げました。

そして、アンカーの藤原誠選手が14秒差でタスキを受けると、終始冷静なレース運びで、ゴール手前300mで雲南市を振り切りゴールしました。

藤原幹男監督は「どの選手もブレーキなく上位で走ってくれたことが勝因。経験豊富な一般選手の力走と地元高校生の若い力がかみ合った。ぎりぎりまで選手が決まらず、厳しい状況の中でチームが良くまとまった」とコメントがありました。



選手とスタッフの皆さん

#### 【出場選手】

- 第1区 安部浩美（横田）
  - 第2区 三谷俊介（三所）区間賞
  - 第3区 松原隼人（鴨倉）
  - 第4区 加藤周三（三成）区間賞
  - 第5区 石原 豊（亀高）
  - 第6区 小倉隆嘉（馬馳）
  - 第7区 藤原 誠（下阿井）
- 最優秀選手賞 加藤周三選手



試合後お互いの健闘をたたえ合う

仁多野球スポーツ少年団の近年の目覚ましい活躍に刺激を受けた、町内の六十歳以上の有志三十二人による「奥出雲マスターズベースボールクラブ」が三月に結成されました。



スポ少との交流試合 井上町長が先発し試合が開幕

## 奥出雲マスターズベースボールクラブ結成

同クラブ代表の藤原好監督は、「これからも練習を重ねていきたい」と意欲を見せていました。

また、対戦した同スポ少の佐藤平前主将が「大先輩と野球ができてとれもうれしかったです。一生懸命ボールを追う姿を見習いたい」と話していました。

また、町のサイン計画に基づき、看板で各所の旧跡・文化財の紹介を行い、情報提供を行います。

特に、たたら製鉄については、全町的な遺構の調査に向け準備を始めます。

### 安全で快適な暮らしを支える町づくり

#### 新エネルギー施策と環境対策

今年度中には、奥出雲町新エネルギービジョンの基本構想を策定することとしており、来年度はバイオマスタウン構想の策定に併せて、公共施設への設備導入を行うための実施計画に取り組みます。

本町の豊富な森林資源と未利用資源を活用し、地産地消の経済活動として持続的・安定的な循環型の産業を構築し、雇用の創出と維持を図ってまいります。

#### 防災対策

合併五周年を記念し、町民の皆さんの参加を頂く避難訓練を含めた夏期総合訓練を実施します。

高分団が「ポンプ車の部」鳥上分団が「小型ポンプの部」に出場することとなり、昨年に引き続き獲得を期待しているところですが、消防施設の整備については今年度の三沢分団への配置に続き、来年度は、鳥上分団へ最新鋭のポンプ車を配置することとしていきます。

### 奥出雲町の行財政運営

#### 行政組織機構・職員

引き続き業務量や事務事業の見直しも含め、不断の行政改革に取り組みます。

また、農林水産省との人事交流は終わりますが、横浜市との人事交流は、横浜市からの要請を受け、もう一年の延長を行います。

また、新たな取り組みとして、内閣府（大臣官房地域活性化統合事務局）へ一名の職員を派遣するなど、今後も引き続き職員の資質の向上を図

つてまいります。人事管理については、適正な定数確保に努め、一定の新規職員の確保を行うこととしております。

活力ある奥出雲を目指して人口減少や地域経済の厳しい状況が続いている一方、町内には他市町村にない明るい動きが多々あります。

横田高校ホッケー部の男女アベックでの全国制覇をはじめ、消防団の活躍、駅伝チームや少年野球チームの健闘など、町民の皆さんが各方面で目覚ましい活躍をされ、明るいニューズで奥出雲町を大いに元気づけてくれています。こうした中で、奥出雲の大きな財産である、豊かな自然や古き良き文化・歴史、町民の方々のねばり強い活動を更に強化し、「活力ある奥出雲」を着実に築いていくよう、全力をあげて取り組む決意であります。

## 活気ある町並みに三成街路灯が完成



点灯した街路灯を見上げる参加者

平成五年に整備された三成地区の街路灯の老朽化に伴い、LED発

光ダイオードを採用した街路灯百四十基が整備されました。

四月六日には、点灯式があり、地元住民など約三百人が完成を祝いました。

式典で井上町長から「今後も環境に配慮した、潤いと活気のある町づくりを進めたい」、また同地区街づくり委員会の長谷川重夫会長から「これからも官民あげて、まめでにぎやかな町づくりに取り組みたい」とあいさつがありました。

今回の整備は、街路灯の更新に合わせ、一体的な空間整

備と商店街の活性化を図ることを目的に、町や三成地区街づくり委員会が一体となって検討されてきました。

LEDの採用により、照度は従来の約二倍でありながら、電気代は、約四十割の削減。

メイン照明のほか、反射板周辺に白色と七色に変化するLEDを配置して彩りを演出したほか、歩道を照らすフットライトを配置した機能的なデザインが特徴で、総事業費は九千八百万円。

なおデザインは、町内の数々の作品を提供いただいている伊藤隆道東京芸術大学名誉教授によるもので、近未来的でありながら、町並みに調和する間接照明が採用されました。